

2019年12月9日

各位

大日本住友製薬株式会社

**「網膜色素変性に対する同種(ヒト)iPS細胞由来網膜シート移植に関する臨床研究」に関する
神戸市立神戸アイセンター病院の発表について**

本日(12月9日)、神戸市立神戸アイセンター病院が、「網膜色素変性に対する同種(ヒト)iPS細胞由来網膜シート移植に関する臨床研究」に関して、この度、再生医療等の安全性の確保等に関する法律に基づき、大阪大学第一特定認定再生医療等委員会への本臨床研究の審査に関する申請を行ったことを発表しましたので、お知らせします。

当該発表の詳細につきましては、添付の神戸市立神戸アイセンター病院によるプレスリリース(「網膜色素変性に対する同種(ヒト)iPS細胞由来網膜シート移植に関する臨床研究」について)をご覧ください。

大日本住友製薬株式会社(本社:大阪市、代表取締役社長:野村 博)は、国立研究開発法人理化学研究所と連携し、iPS細胞由来網膜の立体組織形成と網膜色素変性治療の実用化に向けた研究開発に取り組んでおり、本臨床研究について、神戸市立神戸アイセンター病院と連携していきます。

以上

○本件に関するお問い合わせ先

大日本住友製薬株式会社 コーポレートコミュニケーション部
(大阪) TEL 06-6203-1407/(東京) TEL 03-5159-3300

「網膜色素変性に対する同種(ヒト) iPS 細胞由来網膜シート移植に関する臨床研究」について

1. 概要

神戸市立神戸アイセンター病院は、「網膜色素変性に対する同種(ヒト) iPS 細胞由来網膜シート移植に関する臨床研究」(日本医療研究開発機構 (AMED) 採択事業) を計画してきましたが、この度、再生医療等の安全性の確保等に関する法律に基づき、大阪大学第一特定認定再生医療等委員会への申請を行いましたので、本研究の概要や今後の予定等についてお知らせ致します。

2. 発表者

神戸市立神戸アイセンター病院

栗本 康夫 院長

平見 恭彦 副院長

万代 道子 医師 (国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター
網膜再生医療研究開発プロジェクト副プロジェクトリーダー)

3. 臨床研究の概要

(1) 実施内容

他人由来の iPS 細胞をもとに網膜シートを作製し、網膜色素変性患者の網膜下に移植する世界初めての臨床研究となります。網膜シートを移植し、網膜組織の生着、視機能の回復を目指すものであり、今回の臨床研究はその第一歩として安全性の確認を主な目的としています。

(2) 実施機関及び研究協力機関等の役割

実施機関

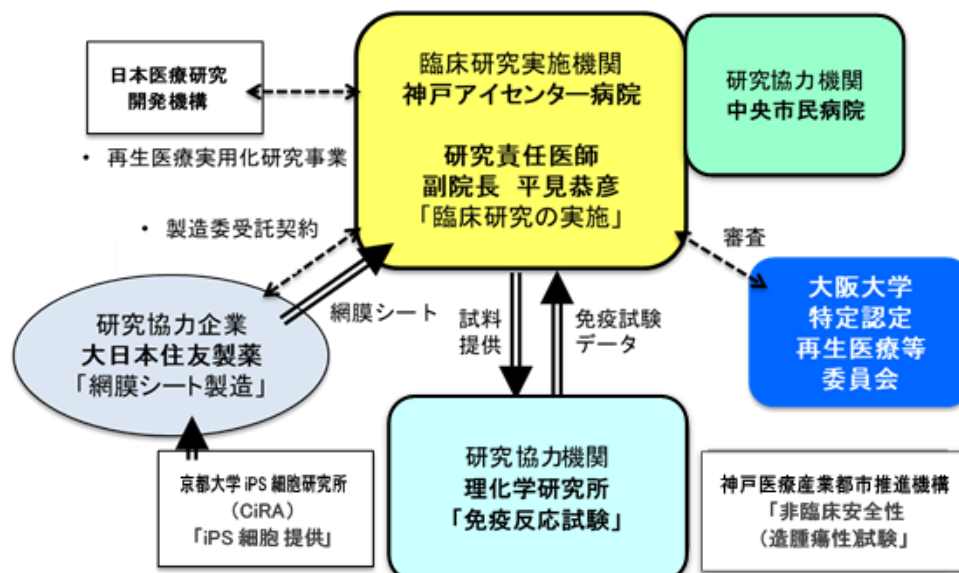
市立神戸アイセンター病院 : 研究の統括、網膜シート移植実施

研究協力機関

国立研究開発法人理化学研究所 : 免疫反応試験の実施

市立医療センター中央市民病院 : 救急時等の対応

大日本住友製薬株式会社 : 網膜シートの製造



(3) 支援機関

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)

(4) 今後のスケジュール

年度内 (予定)	大阪大学第一特定認定再生医療等委員会において審査
(未定)	厚生労働省 再生医療等評価部会への計画の提出・審査
令和2年度	1例目の網膜シート移植